

金澤醫科大學大里内科教室

(主任大里教授)

## 體 質 二 關 ス ル 研 究

### 第三編 ~~體型ト血液型トニ就テ~~

助教授 日 置 陸 奥 夫

砂 山 定 子

(昭和8年8月30日受附)

### 目 次

序 言	
第一章 體型ト血液型	特ニ血液型ノ位置ヲ論ズ
第二章 再ビ體質研究上ノ今後ノ方針ニ就テ	結 論

### 序 言

余等ガ體質ニ關シテ幾許カノ知見ヲ擴メントスルニ際シテ、曩キニ體格、體型ヲ論ジ、今體型ト血液型トノ關係ヲ論ゼントスル所ノモノハ、必ズシモ兩者間ニ密接ナ相關ノアル可キコトヲ豫想シテバハナイ。寧ロ、此兩者ガ密接ナ聯關ニ於テ遺傳スル型質デアラウトハ推察ス可ク餘リニモ縁遠イモノデサヘアル(之ニ關スル考察ハ漸次下ニ展開スルデアラウ)。

併シ乍ラ、今日ノ進歩セル遺傳學上ノ觀念夫自身ハ成程尊重ス可キニハ違ヒナイガ、ソノ觀念タル何レモ事實ノ誤マラザル觀察ニ依ツテ逐次建設セラレタモノデアツテ、之ヲ指針トシテ實驗ヲ進ム可キコトハ何等異論ナキ處デアルガ、之ヲ出發點トシテ結果ヲ速斷スルガ如キコトハ大イニ慎シマネバナラナイト思惟セラレル。

而巳ナラズ曩キニモ報告セル如ク、余等ガ體型ヲ論ズルニ際シテ採レル分類方法ハ從來先進諸家ノ體型ト血液型トヲ論ゼル場合ノ夫ニ必ズシモ多ク一致スル處ノモノデナイ。余等ハ先ノ報告材料ニ於テ同時ニ血液型検査ヲモ施行シタノデアルガ、此處ニソノ結果ヲ述ベントスルコトモ強チ徒爾トノミ云フコトハ出來ナイデアラウ。

### 第一章 體型ト血液型

#### 實驗成績

成人體型ニ關スル被檢例792名中、同時ニ血液型ヲ検査セルモノハ607名ヲ數ヘル。著者等ノ材料ガ血液型ニ就テモ比較的公平ナ撰擇ニ依レルモノナルコトハ、第1表ニ示ス様ニ、岸氏ヤ市田氏ノ夫等ト何等分布的差異ヲ認メ得ヌコトニ依ツテ容易ニ明カデアラウ。

而モ第2表ニ示スガ如ク、人血液型ノ遺傳ガ所謂 dreifache Alleomorphie ニ屬シテ、 $A, B, R$  ト云フ3個ノ遺傳因子ノ頻度ヲ夫々  $p, q, r$  トスル時、血液型ハ  $(p+q+r)^2 = r^2 +$

$(p^2 + 2pr) + (q^2 + 2qr) + 2pq$  ナル頻度ニ於テ現ハル、ト云フコトモ亦余等ノ數ニ於テ理論數トヨク一致シテ學ビ得ラル、處デアル。

第 1 表

報告者	O			A			B			AB		
	實數	%	平均誤差									
岸 孝 義	204	26.2	1.58	279	36.0	1.72	182	23.4	1.52	110	14.4	1.26
市 田 賢 吉	138	25.0	1.84	215	39.0	2.08	138	25.0	1.84	60	10.9	1.33
著 者	185	30.5	1.87	240	39.5	1.98	125	20.6	1.64	57	9.4	1.18

第 2 表

血液型	観 察 数 (A)			理 論 数 (B)		偏 差 (A)-(B)	偏 差ノ 平均誤差	偏 差 平均誤差	P1P2P3P4 平均P=28.7
	實 数	%	平 均 誤 差	%	平 均 誤 差				
O	185	30.45	1.87	30.50	1.87	-0.05	2.64	0.02	q1q2q3q4
A	240	39.55	1.99	39.92	1.99	-0.37	2.82	0.13	平均q=16.6
B	125	20.60	1.64	21.15	1.65	-0.55	2.33	0.24	r =5.53
AB	57	9.40	1.19	9.54	1.19	-0.14	1.69	0.08	

血液型ノ分布ハ男女ニ於テ差異ヲ見ルコトガナイ。第3表ハソノ事實ヲモ認メテ居ル。

第 3 表

血液型	O			A			B			AB			合 計
	實數	%	平均誤差										
總 例	185	30.5	1.87	240	39.5	1.98	125	20.6	1.64	110	9.4	1.18	607
男 性	113	30.2	2.36	146	38.8	2.51	85	22.7	2.16	32	8.3	1.42	376
女 性	72	31.1	3.05	94	40.7	3.24	40	17.3	2.49	25	10.9	2.05	231

偕而シテ本文ノ主眼トスル體型トノ關係ニ於テハ、ソノ如何ナル關係ヲモ持ツモノデナイコトガ、第4表ニ於テ百分率ノ夫々ノ差トソノ平均誤差ヲ比較スレバ、容易ニ明カナルコトヲ得ルノデアル。

第 4 表

體 型	O			A			B			AB			合 計
	實數	%	平均誤差										
總 例	185	30.5	1.87	240	39.5	1.98	125	20.6	1.64	110	9.4	1.18	607
狭 身 型	60	28.0	3.07	77	36.0	3.28	54	25.2	2.96	23	10.8	2.12	214
廣 身 型	110	31.3	2.47	147	41.8	2.63	64	18.3	2.50	30	8.6	2.80	351
肥 滿 型	15	35.7	7.42	16	38.1	7.50	7	16.6	5.76	4	9.6	4.56	42

文献ニ依ルナラバ本邦ニ於テモ既ニ血液型ト體格若クハ體型ニ就テ論ジ、或ハ一定ノ聯關ヲ認メ得タルガ如キ報告(菊地・王力・石井・林等々)ヲナセルモノガアルガ、何レモ或ハソノ材料ノ一方ニ偏セルコトニ依リ、又或ハソノ材料ノ不充分ナルコトニ依リ、充分ニ確實ナ根據ヲ有スルモノトハ云ヒ難イノデアル。近クハ露ノ Tschernorutz ニ依ル報告ガ存スルガ、夫ハ體型ト血液型トノ間ニ何等ノ聯關ヲ認ムルコトノナイモノデアツテ、ソノ結論ニ於テ余等ノ説ト全ク符節スルモノデアル。

## 第二章 再ビ體質研究上ノ今後ノ方針ニ就テ 特ニ血液型ノ位置ヲ論ズ

體質トハ現象型ヲモ之ヲ包含スルモノカ、遺傳型ノミヲ指スモノデアルカト云フ議論ハ暫ラク措キ、體型(而モ今日迄著者等ノ體型トシテ論ゼルモノハ大體ニ於テ骨格ノ縦ニ對スル幅及ビ厚サノ「デメンジオン」ノ關係及ビ之ニ加フル脂肪ノ賦形ニ就テバアルガ)ト血液型ガ密接ナ關係ヲ有スルモノデナカラウト云フコトハ、次ノ點ニ於テ凡ソ想像スルニ難クナイ。若シモ現今ノ遺傳學說ニ從フナラバ、血液型ガ三ツノ種類ノ遺傳因子ヲ有シ、人類染色體24對ノ中ノ1對ヲ占ムルニ對シ、余等ノ行ヘル體型分類デハ狹身・廣身ト云フ風ニ恐ラク2個ノ遺傳因子ヨリナルコトガ最モ考ヘラレ易ク、果シテ然リトスルナラバ之レ全然獨立的ニ遺傳ス可キモノデアルカラデアル。而モ24對モ存スル染色體ノ僅カニ一形質ヲ占ムルニ過ギナイ血液型ト體型ガ聯關遺傳ヲ示サナイカラト云ツテ必ズシモ異トスルニ足リナイ。併シ乍ラ若シ發生學的ニ考察スルナラバ骨格、筋肉、結締織、血管、血液細胞何レモ中胚葉ヨリ發生スルコトガ教ヘラレテ居ルカラシテ前記ノ想像モ何處迄信憑スルニ足リルカハ充分ニ考慮スルノ餘地ガナイデハナイ。併シ事實ノ證明スル處ニ依ツテ兩者間ニハ何等ノ聯關ノナイコトガ明カニナツタ。

血液型因子ハ性ヲ決定ス可キ因子トモ何等ノ關係ガナイ。從テ所謂體型ハソノ如何ナル因子ノ組合セニ依ツテ生レル現象型ナルカハ知ラレナイガ、尠クトモ血液型、性、若シクハ之ニ附隨セル多クノ形質トハ恐ラク無關係ナルモノニ相違ナイ。體型ハ此外ニアツテ之ヲ構成スル遺傳因子ノ組合セニ依ツテ發生シ、同因子ノ占居セル染色體中ノ聯關遺傳因子ノ組合セニ依ツテ數個ノ體質型ヲ形成スルデアラウ。

今體質ヲ更ニ廣義ニ解釋シテ總テノ遺傳型トスルナラバ、血液型又棄去サルコトヲ得ルモノデナイ。性又之ヲ顧ミザルコトヲ得ナイ。各々ニ夫々隨伴スル遺傳形質ガアツテ、血液型、性別ハ宛モ體型ニ隨伴スル狹義ノ體質ニ於テ體型ガソノ最モ目ニ著キ易イ Merkmal トシテ役立ツト同ジニ、血液型、性ハ廣義ノ體質ニ於ケル幾ツカノ特質 Merkmal 中ノ重要ナル一ツデアアルニ相違ナイ。

斯ク觀ジ來ルナラバ余等ノ今後ノ體質ニ關スル研究ニ於テ、被檢例ノ性別、體型ヲ記載スルト同時ニ、聯關ノ或ハ密接ナルモノヲ豫想シ得タ場合ニ、同ジク血液型ヲモ検査スルコトガ出來ルナラバ更ニ興味深イモノガアルデアラウト察セラレル次第デアル。唯遺憾乍ラ今日

迄ノ研究上デハ血液型ト恐ラク聯關遺傳ヲナスデアラウ様ナ形質ニ確實ナモノガ殆ンド知ラレテ居ナイト云ツテモ過言デナイノデ、此點ニ於テ血液型ガ體質ニ相關ヲ持ツコトノ甚ダ稀薄ナル感ヲ懷カシムルコトノ多分ナルモノガアル。乃チ此等ノ考察ニ於テ市田賢吉氏ノ夫ト大體ニ於テ一致シタ考ヘテ現在著者ハ有スルモノデアアル。

## 結 論

1. 體型ト血液型間ニ密接ナ關係ヲ認メ得ナイ。
2. 同時ニ血液型ノ今後體質研究上ノ位置ニ就テ些カノ論ヲナシタ。

恩師大里教授ノ御校閲ヲ謹謝ス。併セテ本學法醫學教室ヨリ血清ノ御分與ヲ賜リタルコトヲ感謝ス。

## 文 獻

- 1) 市田, 金澤十全會雜誌, Bd. 32, Nr. 9.
- 2) 市田, 犯罪學雜誌, Bd. 7, Nr. 3, S. 22, 1933.
- 3) 石井, 軍醫團雜誌, Nr. 224, S. 317, 1932.
- 4) 王, 福岡醫科大學雜誌, Bd. 24, Nr. 8, S. 1044, 1931.
- 5) 菊地, 關西醫事, Nr. 78, S. 4-5, 1931.
- 6) 林, 軍醫團雜誌, Nr. 228, S. 829, 1932.
- 7) Tschernorutzky, Z. f. Konstitutionslehre, Bd. 15, S. 134, 1932.